



# 祐介の目

№141

大田祐介 (福山市議会議員)

## 二刀流のススメ

二刀流の元祖と言えば宮本武蔵、かつて大阪夏の陣で水野勝成に仕えた武蔵は、島原の乱に向かう途中に福山城に寄り勝成に挨拶したと言う。その際に腰掛けた石が「武蔵腰掛石」として備後護国神社に保存されている。二刀流と二足の草鞋は似ているが、後者は「博打打ちと罔つ引き」のように相反する二つの職業をやる例で、前者は双方向分野での活躍を意味するぞつだ。

ところで私の母・大田祥子も二刀流だった。医師として登山家として両方とも完璧にこなしていた。しかも旧姓は「大谷祥子」であり、今を時めく大谷翔平と同姓であり縁を感じる。登山を始めたのは40歳頃からで、当時から将来はエベレストに登りたいと言っていた。家族の誰も本気にしていなかったが、その後の努力と鍛錬により63歳で日本人女性としては6人目の登頂に成功した。

大谷選手も二刀流に挑戦した当初は並みいる評論家から「絶対無理」と酷評されていた。今の活躍を見ての感想を聞いてみたい。プロのスカウトに言わせれば野球の遺伝子は母方の祖父から来るぞつだ。大谷選手の祖父もエースで4番だった。実は私の祖父・大谷熊夫は農業指導員であり、私にも農業遺伝子が来ているのぞつ。

私は13年前に山野町の耕作放棄地にぶどうの苗木を植え、8年前に福山で最初のワイナリーを開業した。その際に備後護国神社に参拝して静かに武蔵腰掛石に座り瞑想した覚えがある。二刀流の兼業議員になって農業や経済活動の苦労を身をもって体験できた、この3年間はコロナ禍も十分に味わった。この体験は議会活動にも大いに役立っていると感じている。ワインの評価も年々高まり、なんとG7サミットで富士の夢(赤)と北天の雫(白)が提供された。皆様も二刀流「半農半X」に挑戦してはいかがだろう。このままでは日本の農業は近い将来壊滅するが、皆様の二刀流でなんとか喰い止めていたきたい。その際には備後護国神社に参拝し、武蔵腰掛石に座ることをお勧めする。